

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		萩原さくらんぼ教室			公表日		R7年 3月 17日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・活動に応じて遊具の配置を変えることができる。また、配置の工夫もしている。 ・個別活動ができる部屋もある。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・1対1で関われる配置になっている。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・環境整備を毎日行っている。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・子どもの活動に合わせて空間を作ったり、同線、スペースを確保している。	・広く使いたい時に玩具や道具等を収納する場所がないため、物置などの設置が必要。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・段ボールハウスやカーテンで仕切るなど、個別のスペースが確保できる環境になっている。			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・常に職員間で話し合える環境であり、PDCAサイクルは活動記録にも反映されているためみんなで共有し、取り組んでいる。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年1回の評価表による意向の把握とともに、面談や連絡ノートでも保護者とやりとりし、思いを共有し業務に反映させている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・職員が話しやすい雰囲気であり、一人ひとりが向上できるようにお互いが切磋琢磨している。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		・公開療育を行い、他機関の先生方の意見を聞いて業務改善につなげている。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・オンライン研修が増えてきたことで研修が受けやすくなっている。 ・市保育研究会の会員となり参加している。			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・児童発達支援ガイドラインに沿い、支援プログラムを作成した。ホームページに公表している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・保護者からの話を丁寧に聞くようにしている。 ・保護者の思いを大切にしつつ、子どもに必要な計画を作成している。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・支援計画の原案に対して十分な話し合いをしている。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・児童発達支援計画が個別のファイルに入っているため、いつも目につく所にあり計画に基づいた支援ができている。 ・指導のねらいは支援計画に沿って立てている。 ・話し合いを設け、課題を考え支援している。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・アセスメント表を用いて、子どもの適応行動の状況を把握している。			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・支援計画を立てる際にガイドラインで確認しながら、一人ひとりに沿った内容になるよう作成している。			

の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・色々な意見を出し合いながらみんなで考えている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・子どもの成長に合わせたプログラムを常に考えている。 ・日々の一人ひとりの様子に合ったプログラムとなるよう考えている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		・集団活動は誰と組むかによって内容を変えている。 ・子どもの状況に応じて考えている。 ・記録や話し合いを基に次の支援に繋げている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・職員間で話しやすい環境となっているため、常に気軽に話し合うことができ連携もできている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・上記に同じ。 ・どのようなことでも聞くことのできる風通しのよい環境となっているため共有しやすい	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・職員同士記録を読み合い支援の継続、改善に繋げている。 ・支援終了後には必ず記録をとっている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・常に職員間で情報の共有をしているのでどの職員も子どもの状況をよく理解している。	
関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・良好な関係が持たれており連携が取れている	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・こども園併設なので常に情報共有はできている。 ・他園通室児も職員が園に出向いたり、支援会に参加したり相互理解はしっかりとできている	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・定期的に連携会議を行っている。 ・相談、見学、体験等も随時受けてくれ連携がとれている	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)			・地域に児童発達支援センターはないが、こども家庭センターや学校教育課の心理士に助言を受け、よりよい支援に繋げている	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		・こども園併設なので常に一緒に活動している ・職員がクラスに出向いて様子を見ることもしている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・通室ノートにて指導日の様子を詳しく伝えている。 ・通室ノートは事業所、担任、保護者の3者が共有できるようにしている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・講師を招いての親子会や岐大神野先生との座談会などを計画し学んでいる。 ・さくらんぼの集い等を行っている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・入室時に丁寧に説明している。	

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点で踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・保護者の話は丁寧に聞くようにしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・年2回の面談と共に、電話や通室ノートで相談があった場合はその都度相談に応じている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・かたつむりの会の案内を配布している。 ・さくらんぼのつどいや事業所独自の親子会や座談会等、保護者の方が集まる機会を設けている。 ・きょうだい同士の交流は行っていないが、きょうだいも参加できる会を設けている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・相談や申し入れに対しては、特に丁寧に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・ホームページにアンケートや行事計画を載せている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・個人情報があるものは施錠できる棚にしまっている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・その子に分かりやすい方法で伝えている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・事業所の行事に地域住民を招待することはないが、事業所の行事で地域の場に出向いたり、地域の方を講師に招いてつどいや親子会を行っている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・こども園と一緒にやっている。 ・マニュアルはこども園に準じている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・毎月避難訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・未就園児は保健師より、こども園園児はクラス担任より情報をもらっている。また、入室面談時での確認や保護者からの連絡があった時は、職員全員が把握している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・医師の指示書については、こども園と共有し同じように対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・年度始めの職員会で確認し、安全管理には十分気を付けている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・安全計画を作成し、さくらんぼの掲示板に掲示し誰もが見えるようにしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・毎月の備品の安全確認とヒヤリハットについてはその場で対策している。 ・原因を考え次に起こさないよう、共通理解を深めるようにしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・毎月のセルフチェックと、事業所だけではなくこども園での研修にも参加している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		・身体拘束のマニュアルを策定している。 ・現在身体拘束を行う事案はないが、必要になった場合は十分に検討し、保護者の同意確認、計画への記載を行う。	